

# コミュニティ防災を支援する 地域防災ファシリテータ育成プログラム

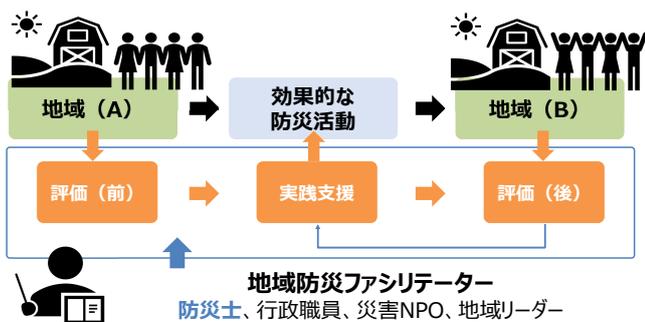
社会防災研究領域 災害過程研究部門 李泰榮、今泉賢吾

## Point

- 全国で育成されている「防災士」（2025年2月現在、315,576人、日本防災士機構認証）を対象。
- コミュニティの防災対策の検討と推進を支援する人材が育成できるプログラムの開発。
- 基礎自治体や各種防災支援団体が活用・育成し、公助の負担軽減、地域防災力向上に寄与。

## 概要

防災士を対象に、防災活動の実践・支援の状況、課題、要望などの実態調査をもとに、地域コミュニティの効果的な防災活動を支援できる人材育成のための方法・資料・コンテンツを整備し、茨城県防災士会と協力のもと、地域防災の現場で活躍できる防災士が育成できるように、現役の防災士と共に防災士の知識や知恵、経験をもとにした「防災支援人材育成プログラム」を研究開発する。

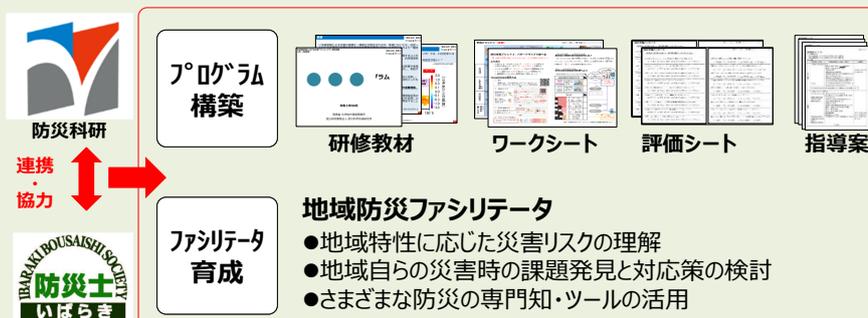


## 防災活動の課題

効果的な防災活動には、地域防災専門家の支援が不可欠

- 地域防災の活動主体（自治会や自主防災組織など）が持つ知識・経験に依存した一律的な防災活動＝訓練（消火訓練、安否訓練、避難訓練等）が主流。
- 地域社会の多様化と弱体化に加え、気候変動に伴う災害リスクの増大化・複雑化に対し、従来までのマニュアル等に沿った画一的・集団的な防災活動では柔軟な対応が困難。
- 効果的な防災対策の検討と推進のためには、専門的な知識や能力が必要であるため、防災専門家の支援に大きく依存。
- 防災士は、防災の専門的な知識・知恵・経験を有するが、これらを活用し地域に介入する、地域を支援するノウハウが不足。

## 地域防災ファシリテータ育成プログラム



- 防災活動を効果的に支援するための考え方をはじめ、防災活動の実践に必要な専門知とそれを活用した効果的な防災活動のプロセス、具体的な実践方法。
- 研修教材、ワークシート、資料集、評価シート（前後）、指導案で構成。
- 座学（60分）と演習（30分）で構成し、計6回程度で構成。

## 地域防災ファシリテーション「形」（かた）



- ✓ 地域コミュニティの効果的な防災活動を支援するための一連の流れを提供。
- ✓ 変化する状況に応じて自由な対応を可能にするための教育方法論。
- ✓ 地域社会が自律的に防災力を高めていくための「思考と行動」を体系化したもの。

